

文化活動部会

I. 研究の概要

1. 研究課題

「豊かで創造的な文化活動をどのように展開すればよいか」

2. 研究内容

【研究内容 1】

地域の素材を生かした文化的な教育実践

地域の人々や環境などとの関わりからつくる活動のあり方や工夫

- ア 地域人材の発掘・活用や地域と連携を図った教育実践
- イ アイヌ文化に関する研修
- ウ 地域の自然や施設を活用した教育実践
- エ 社会教育との連携を図った教育実践

【研究内容 2】

効果的な読書活動のすすめ方

子どもたちが読書に親しむ効果的な指導や環境の工夫

- ア 地域ボランティアやPTAと協力した読み聞かせなどの実践や、読書指導の実践
- イ 調べ学習に役立つ図書館の活用法と実習
- ウ 学校図書館の運営や外部図書館との連携など、豊かな読書環境作りに取り組んだ実践

3. 研究方法

(1) 交流計画

部会便りの配付及びホームページによる情報の伝達をできるだけ行い、研究課題や研究内容の共通理解を図る。

(2) 分科会構成

第1分科会、第2分科会ともに、今年度は南北合同開催とする。

第1分科会「地域と教育活動」 会場：北広島市立北の台小学校 理科室

第2分科会「読書活動」 会場：北広島市立北の台小学校 体育館

(3) 研究協議会の内容と方法

研究協議会では、研究課題や研究内容に沿った実技講習と学校レポート発表による実践交流を行い、今年度の成果と課題を明らかにしていく。

II. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過

(1) 部会役員研修会による研究経過

- | | | |
|-------|--|----------------------------------|
| 5月 6日 | 第一回部会役員研修会 | 研究計画の概要の確認 |
| 5月26日 | 第二回部会役員研修 | 部会当日の協議内容について |
| 6月30日 | 第三回部会役員研修会 | 研究協議会運営についての各分科会決定事項の確認と進行状況について |
| 8月23日 | 第四回部会役員研修会 | 研究協議会の進め方についての確認 |
| 9月 6日 | 石教研課題部会研究協議会（会場：北広島市立北の台小学校）
第1分科会「地域と教育活動」：南北合同研究協議会
第2分科会「読書活動」：南北合同研究協議会、 | |
| 9月16日 | 第五回部会役員研修会 | 協議内容の確認、成果と課題の洗い出し |

(2) 部会役員研修会での研究成果

今年度は、5月～8月までの4回の役員研修会の中で、研究協議会に向けての準備が進められた。役員の入れ替わりがなかったこともあり、これまで積み上げてきた経験や活動を生かしながら、研究協議会へ向けた準備を進めることができた。内容に関わっては、昨年度の反省をもとに検討がなされ、役員の見解を取り入れながら、実践に根付いた協議会の計画が立てられた。また、各分科会の担当を分担することで分業され、研究協議会の運営をスムーズに進めることができた。

役員研修会では、研究の視点を確認し合う中で、どのような実技講習を企画したらよいか、また日頃の実践につながるレポート交流がより充実したものとなるための方策について検討を重ねた。講師をできるだけ早い段階で探して依頼せねばならず、外部機関の活用も検討した。実技講習会の方向性は、反省や部会員からの声を拾い上げて、ある程度前年度のうちに明らかにしておく必要がある。

2. 課題部会研究協議会での交流

(1) 課題部会研究協議会での交流内容

第1分科会「地域と教育活動」 【南ブロック・北ブロック合同開催】

① 実践レポート交流の様子

今年度は、11本のレポートが集まった。昨年度に比べてレポート数は減ったが、地域の人材や環境をどう生かしていくかという点をテーマに掲げたレポートが多く集まり、各校の実践が紹介された。また、今年度よりグループごとにレポート交流を行うことで、地域人材を活用する利点や課題等が具体的に話し合われ、有意義な時間となった。

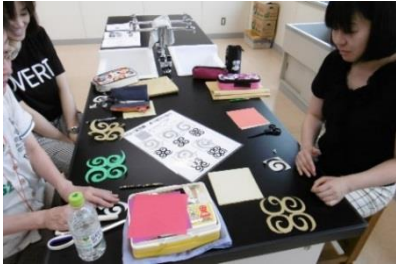


② 実技講習「アイヌ文様体験（切り絵・刺繍）」

講師：アイヌ文化振興研究推進機構アドバイザー

アイヌ文化を学ぶ取組として、今年度はアイヌ文様体験（切り絵・刺繍）を行った。アイヌ文化活動アドバイザーの方を講師に招き、文様が表す意味や作成の手順等を丁寧に聞くことができ、部会員の先生方からも好評であった。

切り絵体験では、アイヌ文様の意味も一緒に学んだ。「シク」には目の意味があることや「モレウ」は渦巻きを表していて力・パワーの意味があり、力がそなわるといふ思いがこめられていることを知った。また、「アイウシ」は棘のようになっていて魔よけの意味を表す。これは、着物の襟や裾、袖口などに多く見られ、悪い霊が入り込まないようにと考えられたものであるということも学んだ。



刺繍体験では、チェーンステッチと言われる鎖縫いを体験した。3名の講師の方に教えていただき、部会員は慣れない縫い方に苦労しながらも丁寧に縫うことができた。刺繍にも切り絵と同じように、災いが侵入してこないようにという意味があり、愛する人が健康でいられるようにと女性が心を込めて刺繍したとのことであった。

③成果と課題

昨年度までのレポート交流は、実践の紹介にとどまってしまうことが多く、内容を深めることはできていなかった。今年度は、グループごとに交流することにより、テーマに沿った話し合いが積極的に行われ、有意義な時間となった。

実技講習では、今年度初めてアイヌ文様体験を行った。様々な形で実技講習を行っていくことは今後も継続していきたい。

課題は、レポート数が年々減ってきていることとレポート交流の時間の確保である。講師の方をお呼びしている関係で毎年実技講習を最初に行っている。大変有意義ではあるが、時間も要してしまい、今年度はレポート交流の時間が少なくなってしまった。各校の実践例を紹介した参考になるレポートも多いので、次年度は交流の時間もしっかりと確保していきたい。

第2分科会「読書活動」

【南ブロック・北ブロック合同開催】

① 実技講習「語りの世界をあじわおう（幻燈と語り）～豊かな読書体験へのいざない」

講師：読み聞かせサークル「ぱたぼん」のみなさん

（高橋辰美さん、深沢玲子さん、三春満里子さん、村本泰江さん）

豊かな読書体験の創造を課題として、「幻燈」と「語り」の世界を味わう実技講習を企画した。講師には、これまで図書館や学校などでたくさんの子どもたちに幻燈や語りの世界を届ける活動を重ねてきた読み聞かせサークル「ぱたぼん」（恵庭）のみなさんを迎えた。

始めに見せて下さった「幻燈」では、体育館の照明を落とす中で映し出されるスライドの趣が大変印象的で、物語のもつ魅力を存分に味わえる演出であった。今回は、『くつしたあみのおばあさん』『ねむたいねむたいももんがたち』『エマおばあちゃん』の3つのお話を披露して下さった。ゆったりとした語り、抒情あふれる効果的な音楽、そして、スライドが変わる際の「カシャリ」という幻燈機特有の音が相まって、新たな幻燈の魅力に存分にふれることができた。

そして、やわらいだ霏雰囲気の中、参加者全員で手遊び歌「てんやのおもち」を教えてもらいながら一緒に楽しんだあと、「語り」を聞かせていただいた。演目は、①「ふたりの朝ごはん」（詩） ②「あさがおとあさねぼう」 ③「オンチョロチョロの穴のぞき」 ④「頭の大きなおとこの話」の4つであった。耳で聞くお話の世界に引き込まれるひとときを共有することができた。ぱたぼんのみなさんは、小澤俊夫氏が主宰している「昔話大学」で昔話や語りの魅力や奥深さを学び続けておられるようだ。静かな語りを聞かせて下さった深沢さんは、「語りは、演じるものでも、パフォーマンスを届けるものではない。お話をそのまま届けたいと思っている」と心がけていることをお話しされた。そして、語りが一番の魅力は、「身近な人にお話を語ってもらう」とことという説明にも大きくなずけた。

参加者からは、「読み聞かせに活かせるヒントをいただいた。間の取り方や目線一つで、お話の世界を広げていくことがわかった」など、感想が寄せられた。

② 実践レポート交流の様子

今年度は、「おすすめの本」をテーマに、子どもに人気の本、学校図書館人気ランキング、わたしのイチオシの本など観点を決めて自由に選書し、レポートにまとめてもらうこととした。38本のレポートが集まった。グループに分かれての約30分間の交流では、持参したおすすめ本の内容や活用例も含め、部会員それぞれの熱い思いが語られた。後半は、グループ内で選んだ「スペシャルブック（SB）」（イチオシ本）を紹介し合った。憲法の本、中学生の感性をくすぐ

る本、子どもたちの想像を広げる本、世代を越え多くの人にぜひ読んでもらいたい本など、様々な視点で選ばれた SB の交流となった。魅力的な本の情報を得ることができ、今後の選書にも生かしたいと好評であった。

③ 成果と課題

「幻燈」と「語り」を取り上げた実技講習を通して、声やお話の持つ言葉の力について再認識することができた。お話の世界に引き込む工夫は無限にあることにも改めて気づかされた。会場や教室にちょっとした演出をほどこしながら読み聞かせをするなど、本と出会う楽しさや喜びの創造をこれからも部会のテーマとして追究し、今後も実践や図書館運営に活かすことのできる内容を取り上げた研修会を企画したい。

例年部会員のニーズとして、読書指導に関わることと図書館運営に関わる研修の希望が挙げられる。部会運営の課題として検討していきたい。

レポート交流に向けては、交流テーマの焦点化を検討しつつ、早い時期に内容を知らせて準備ができるようにしたい。また、実践紹介にとどまらず、読み聞かせや実際にものを作るなど、「ワークショップ型」の交流についても検討をしたい。

Ⅲ. 部会研究の成果と課題

1. 成果

「アイヌ文様体験（切り絵・刺繍）」と「幻燈と語り」の実技講習会を各分科会において行い、部会員は、体験しながらそれぞれの実践について学ぶことができた。学校に持ち帰って実践につなげていきたいという前向きな反省も多く寄せられ、有意義な研究協議会となった。文化活動部会では、これからも部会員が積み上げてきた実践を互いに学ぶ合うことを軸に、体験的・実践的な活動を取り入れた研究協議会を企画していきたいと考える。集まったレポートは、学校や地域の特色を生かした実践がまとめられたものばかりであった。管内における特色ある取り組みを交流していくことは、大変意義深い。子どもたちのいきいきとした活動の様子や作品の交流、地域との関わりを通して学びを深めていく姿、思考錯誤を重ねながら実践をつくりあげていく教師の声は、今後の実践に検討を加えていく原動力となるであろう。焦点化されわかりやすくまとめられたレポートを広く交流することは、部会員の大きな刺激となる。これからも部会の財産として共有し、蓄積していきたい。

また、今年度の研究協議会では、優れた実践を重ねている方に講師をお願いすることができた。両分科会ともに、講師の方の経験豊かな説明がわかりやすかったと好評であった。地域人材の活用や公共図書館との連携など、広く文化的な活動をとらえた交流を進められるよう、次年度以降も、積極的に外部講師を招くことを検討していきたい。

2. 課題

それぞれの分科会において、研究主題を解明していくためには、実技講習だけではなく、レポート交流も重要である。これからも研究主題解明のために、各校のレポートをしっかりと交流し、様々な情報を蓄積していく必要があると考える。そして、実技講習についても、部会員の今後の実践に役立つよう、偏りがないように内容を吟味し企画していくことが課題である。

(文責 飯坂 直子)